

サイトメガロウイルス感染に関する研究 (分担研究報告書)

分担研究者 中 尾 亨
研究協力者 沼 崎 義 夫

妊娠経過中における母体のサイトメガロウイルス (CMV) 感染と胎児感染とを知る目的で、多数の妊婦と新生児を対象にウイルス血清学的研究を行ない以下の成績を得た。

1. 妊婦におけるCMV感染

妊婦血清につきCMVに対する補体結合 (CF) 抗体価を測定した結果、妊娠経過中のCMV感染は3,189例中46例 (1.4%) に認められたが、妊娠初期CF抗体陰性群のみについてみると、278例中16例 (5.8%) と高率であった。これら46例から出生した児のうち、1例にのみ新生児期にウイルス尿陽性で胎内感染が証明されたが、他は全て胎児感染は検出されず、追跡調査によっても正常であった。

一方、1,075例中28例 (2.6%) に妊娠経過中に一過性のウイルス尿が検出されたが、ほとんどの例でCF抗体価の有意変動を認めなかった。これら28例中1例に胎児感染が検出された。

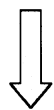
2. CMV胎内感染のスクリーニング成績

新生児尿からのウイルス分離によるスクリーニングでは、2,050例中11例 (0.5%) にウイルス尿を認め胎内感染が証明された。これら11例は全例新生児期に異常を認めず、3ヶ月～2年間の追跡調査では特に異常を認めていない。

一方、臍帯血IgMレベルが50mg/dl以上の異常上昇を示した症例は、2,555例中8例 (0.3%) に認められたがこれらの中にCMV胎児感染は検出されなかった。また、IgM異常高値例のうち追跡できた5例には全例何んらかの異常が認められた。

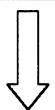
3. 乳児期肝疾患とCMV感染について

健康乳児および肝疾患乳児についてCMV各種抗体を調査した結果、新生児肝炎、乳児期肝炎、および肝脾腫大の成因とCMV感染との因果関係が示唆されたが、胆道閉鎖症との病因関係は否定された。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



妊娠経過中における母体のサイトメガロウイルス(CMV)感染と胎児感染とを知る目的で,多数の妊婦と新生児を対象にウイルス血清学的研究を行ない以下の成績を得た。